

町の人口 (10月末)
 世帯数 1582 (+6)
 人口
 男 3,416 (+7)
 女 3,552 (-3)
 計 6,968 (+4)

広報かわぐち

No. 12
 発行所 川口町公民館
 印刷所 山勝堂印刷所



新住宅街

新団地に 移転おわる

山ノ相川部落の移転先は、西川口地内岩出原で、県道川口、岩沢線沿いで、写真でみるように広々とした平地に面し、面積も一戸当り約一〇〇坪である。新しい土地での生活の始まりと同時に年の暮れとなり、あわただしいが新しい年、新しい生活へのプランは着々と進んでいく。



「いつまでもふりかえってばかりいられません。みんな話して合せて前向きでやります。」力強い言葉がかえって来た。

雪への準備OK

組合長に星野誠一氏再任

例年結成されて、めざましい活躍をして来た除雪組合が新たに編成され、ことしの雪害防止に全力投球することになった。

ことしの形成人員は三〇〇名で地区別にみると次のようになる。

- 和南津地区 五〇名
- 西川口地区 一一三名
- 中山地区 三八名
- 東部地区 五名
- 相川地区 六三名
- 武蔵窪地区 二二名
- 牛ヶ島地区 九名

役員には
 組合長 星野誠一
 副組合長 渡辺清一
 阿部長吉

庶務会計 丸山兼一
 役員 岡村仙一
 山田隆吉
 鈴木良司
 網野一男
 鷺海正則
 古田島栄松
 廣井松



囲碁将棋大会

昭和四十八年度の町民囲碁将棋大会の結果は次のとおりです。

将棋の部
 総合優勝 星野正
 準優勝 関勝人

囲碁の部
 総合優勝 鈴木作蔵
 準優勝 小林軍治



卓球大会

十一月十八日(日)町民卓球大会が開催されました。結果は次のとおり。

団体戦
 一位 西川口地区館
 二位 泉水地区館
 三位 田麦山地区館

個人戦 (ジュニア男子の部)
 一位 星野学

松組一位 星野正
 二位 喜多村喜平
 三位 堀沢哲男

竹組一位 内藤武
 二位 安達三郎
 三位 山田健男

梅組一位 関勝人
 二位 山田富雄
 三位 小宮山多喜男

B組一位 鈴木作蔵
 二位 小林軍治
 三位 中村貞三

A組一位 鈴木作蔵
 二位 小林軍治
 三位 中山茂

堀沢治作

悪質消火器 販売に 注意

最近「消防署の了承を得た」とか「役場の了承を得た」とか「あなたの今もって」などといったり、「あなたの今もって」の消火器は近いうちに法律が改正されて使用が禁じられるのでこの消火器を今のうちに買って置きなさい。」というようなことをいって市販の倍くらいで消火器を販売する業者がみうけられます。見知らぬ業者から前述のようなことをいわれた場合は買う前に役場へおたずね下さい。

一般家庭用の消火器は、火災予

防上初期消火のために自主的に備えるものですから、強制的な口くするまにのらないよう注意して下さい。

新しい生活へ力強く

岩出原集落移転

とき、十月二十四日
 ところ、山ノ相川小学校
 新潟日報社、朝日、読売、毎日の各新聞社をはじめ、BSNテレビ、日本テレビなど報道関係者のカメラフラッシュを浴びる中で、午前十一時、七百有余年の歴史をもつ山ノ相川集落の移転式と学校の閉校式が挙行された。

この日、秋の空澄みわたって青く、新たな希望とともに再出発する山ノ相川の人達を祝福するかのようには輝いていた。

十一世帯四十七人、うち小・中学校児童、生徒十一人を囲むように関係者、町議会議員、学校職員、町関係者が位置し定刻に開式、町長の式辞(二面に掲載)に次いで来賓の祝辞のあと、子田校長の挨拶、「最後まで頑張りつづけた皆さんだけが身につけたこの尊い経験は、これから生きていくための大きな力であり、村を守り、生活を続けて来た皆さんの力は誇るべきだ」と。さらに田麦山中学校校長は、「栄の道にある『一期一会』の言葉の如く、人生は、はかないものだが、人と人との出会いは大切にしなければならぬ。この心と心のふれ合い、一度の人生の出会いを大切に」と結んだ。

閉式近く、子ども会代表の黒島美智子さんのわかれの言葉は、何度か涙で声がつまった。山の自然に恵まれた平和なたたずまい、心に残る数々の思い出、故郷を離れるさみしさを語りかけ参列者の涙をさそった。

相川川の谷深く、
 変らぬ調べいつまでも
 力あわせ肩をくみ
 学ぶも楽しわが母校
 山ノ相川校……

頬をつたう涙を拭くおうともせず、これが最後と声たからかに合唱した校歌、四囲にこだまして、式典は終わった。

山ノ相川 768年の歴史に終止符



この日、秋の空澄みわたって青く、新たな希望とともに再出発する山ノ相川の人達を祝福するかのようには輝いていた。

十一世帯四十七人、うち小・中学校児童、生徒十一人を囲むように関係者、町議会議員、学校職員、町関係者が位置し定刻に開式、町長の式辞(二面に掲載)に次いで来賓の祝辞のあと、子田校長の挨拶、「最後まで頑張りつづけた皆さんだけが身につけたこの尊い経験は、これから生きていくための大きな力であり、村を守り、生活を続けて来た皆さんの力は誇るべきだ」と。さらに田麦山中学校校長は、「栄の道にある『一期一会』の言葉の如く、人生は、はかないものだが、人と人との出会いは大切にしなければならぬ。この心と心のふれ合い、一度の人生の出会いを大切に」と結んだ。

閉式近く、子ども会代表の黒島美智子さんのわかれの言葉は、何度か涙で声がつまった。山の自然に恵まれた平和なたたずまい、心に残る数々の思い出、故郷を離れるさみしさを語りかけ参列者の涙をさそった。

相川川の谷深く、
 変らぬ調べいつまでも
 力あわせ肩をくみ
 学ぶも楽しわが母校
 山ノ相川校……

頬をつたう涙を拭くおうともせず、これが最後と声たからかに合唱した校歌、四囲にこだまして、式典は終わった。

涙の集落移転。山ノ相川校閉校式

誰にも忘れがたき「ふるさと」がある

式 辞

本日、山ノ相川集落移転式並びに閉校式を行うにあたりまして、日頃お世話になっております山ノ相川集落移転部長代理殿を始め、来賓多数のご出席をいただきまして、心より厚くお礼申し上げます。山ノ相川集落は、町の中心部から約十二キロ南にはいり、奥道が一本、山あいを通り、山に囲まれた辺地でありました。冬期間は、例年だと四メートル余りの深い雪に閉ざされ、ほとんど途絶状態になります。耕地面積も少なく、水田は平均五アール位で飯米かせぎが精いっぱい、出稼や日雇労働で生活を補っていません。部落の起こりについては、芋坂の大淵家所蔵の古文書によると、鎌倉時代に、内ヶ巻城主田中大蔵がこの近辺二十ヶ村を領していたところ、二十ヶ村の名主のなかに、山ノ相川、忠兵衛なる者の名前があります。この文書の年号が元久二年とありますので、今から約七百六十八年前のことです。すでにこの頃から山ノ相川集落があったことが推定できます。ひとくちに、七百年といいますが、七百年の長い間には、国の上にも、社会状況

なければならぬとされています。このいずれかがかけると、その集落はだんだん過疎化され、ついには崩壊して行くといわれます。町としては、山の相川の過疎化防止は、集落の機能の整備にあるとして、歴代首長が国県の援助を求めながら、先づ道路を改良して補装や雪崩防止工事を施行しました。林道や農道も開き、林産物、農産物の生産に力を入れました。通信の便をはかるために、有線放送電話も架設し、学校も昭和二十九年に新築し、更に四十四年には分校であった小学校を独立校にして、グラウンドや教員住宅もふやしました。へき地教育の振興につとめました。その他、生活基盤の強化対策をいろいろと推進してまいりましたが、これという産業資源を持たない豪雪地であるこの辺地では、行政の光のみでは、どうしても過疎化を防ぐことができません。しかし、日本経済の高

な結果となりました。文明を追求するのは、人間の本性であり、人に生活の向上を願う気持ちがある限り、過疎現象は今後も続くといわれています。このような観点に立って考えますとき、当集落は既に十二戸に減少し、今後なお過疎化が進むと、もう集落存立の条件を備えることが困難になります。したがって、この際見切りをつけ、他の地域で集落を再編成することが将来にわたる過疎対策として最も望ましいと判断したわけでありました。これらの状況をふまえて、なから昨年来部落民とじゅうぶん協議をいたしました結果、全員揃って、町の中央部西川口地区へ移転することに決定。その準備を進め、今日完了の運びとなった次第でございます。集落再編成の施策として、集落移転の例は、全国的には早い方ではありますが、とどまるところをしない文明の進歩に、過疎化は今後も全国的に進み、集落移転は、あとを断たないものとおもわれます。山ノ相川の皆様は、幾星霜住みなれた想い出深いこの地域を、今秋限りで離れて、新しい土地で、新しい生活に向けて、スタートするわけでありまして、長い間の集落をやり支え、繁栄を念じ



昭和四十八年十月二十四日
川口町長 星野 輝政



田麦山小学校

創立百周年記念式典挙行

明治四年廃藩置県が行なわれ、政府の行政機構が出来、教育行政の府として同年七月文部省が設置された。これに伴い以前の武家学校や、藩校、寺小屋等の諸学校も新しい時代を迎えて文部省の統轄に復することとなり、翌五年学制が公布された。



田麦山小学校は学制発布の翌年明治六年十一月に創立され幾多の変遷を経て今日の輝かしい創立百周年を迎えたもの、記念式典は十月二十日同校屋内体育場で町長、議会議員、校区民多数の参加を得ておごそかにとり行なわれた。

表彰状
前PTA会長 大淵寅松
永年勤続者 樋口千代野
全 笹崎リツ

感謝状
田麦地区総代 内山 等
(日時計他教材寄贈)
信越工業株式会社
佐藤秀雄

(カラーテレビ二台寄贈)
なお、学校では六日町柴田寅助氏から寄贈を受けた記念樹木の植え込み作業、旧職員有志から寄贈された教材、大淵源二氏、柴田寅助氏から寄贈された図書等の整理等に大わらわ。学校全体が喜びに包まれていた。



交通安全の二氏に表彰状



交通安全功労者
生越千里氏
優良運転手
阿部 伸太郎

この両氏に対し、秋の交通安全運動の最終日の九月三十日にそれぞれ表彰状と記念品が授与された。生越さんは、交通指導員として交通安全指導と救急業務に従事する一方、事故相談にも積極的に取り組み、これらの業績が認められ、県警本部長、県交通安全協会会長の表彰となったものである。昨年の県知事表彰に次いでこの受賞である。

阿部さんは、本年七月、優良運転者として県知事表彰をうけ、更に今回は、全日本交通安全協会会長の表彰をうけたのである。

氏は青柳工務店に監査役として勤務され地域にあっては、交通安全協会の分会長として常に交通安全確保の先頭に立って活躍中である。

三十二年間の無事故運転が認められ、このたびの受賞となったのも、両氏は受賞のよろこびを次のように語った。

雪国の悲運？

冬季分校を開設

「身のひきしまる思いである、職場の同僚や、家庭の協力があつたからこそこの栄によくしたのであつて感謝の気持ちで一杯だ。今後もういっそうの精進を続けたい。」

ゆく年も 来る年も降雪に見舞われ、冬季間小学校低学年生の通学は困難というところで、例年へき地にある牛ヶ首、荒谷地区に文部省の認可を得て冬季分校を開設している、今年も次のように開設する運びとなった。

- 川口小学校牛ヶ首冬季分校
二年 一名 三年 一名
- 四年 二名 計四名
- 担任教員 井口 正助教諭
- 泉水小学校荒谷冬季分校
一年 一名 二年 一名
- 計二名
- 担任教員村山健之丞助教諭

冬季分校開設期間
自昭和四十八年十二月一日
至昭和四十九年三月三十一日
自然条件のきびしさ、施設、設備の乏しい分校で児童は四か月間本校の友達と分れて勉強する。

(豆)(法)(律)

年末調整 サラリーマンは ご注意を

12月には、この一年間に源泉徴収された所得税を精算するための年末調整が行なわれますが、サラリーマンのかたに注意していただく点をお知らせしましょう。

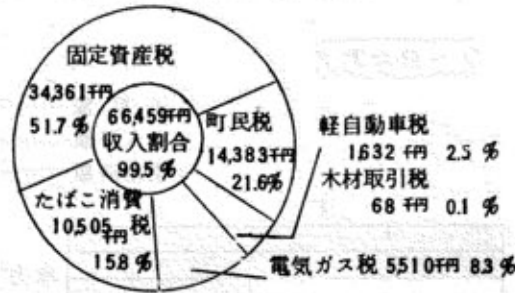
- 扶養親族や配偶者控除が受けられる配偶者などに異動があり、まだ異動申告をしていない人。
- 国民健康保険や国民年金などの社会保険料、小規模企業共済等掛金、生命保険料、損害保険料の控除を受けようとする人。
- 住宅や宅地をかうために一定の要件のもとに、①地方住宅供給公社への積金、日本住宅公団からの宅地債券の購入や銀行などへ預金して住宅貯蓄控除(本年中の積立金額の四割相当額)最高年度額二万円)を受けようとする人、または、②勤労者財産形式貯蓄をして住宅貯蓄控除(本年中の積立金額の六割相当額)最高年度額三万円)を受けようとする人。(小千谷税務署)

町民 人当りでは

内 容	1人当り	1世帯当り
出たお金全体	71,014円	317,022円
町税負担額(調定額)	9,596	42,839
町民税(〃)	2,080	9,284
固定資産税(〃)	4,960	22,143

※ 本年3月の人口・世帯数で計算しました。

町税の収入状況



町の財産

土地と建物

区 分	土地	建 物			
		木造	非木造	延面積計	
本 庁 舎	665 m ²	274 m ²	441 m ²	715 m ²	
行政財産 その他の	消防施設	170	247	20	267
	その他の施設		37	10	47
公共用財産	学 校	81,888	11,210	2,993	142,033
	公 営 住 宅	4,425		895	895
	公 園	1,041		7	7
	その他の施設	9,055	2,322	1,115	34,372
山 林	508,524				
教 員 住 宅	513	781		781	
そ の 他	8,474	353		353	
計	614,755	15,224	5,481	207,055	

町債の現在高2億7千357万7千円

(昭和48年3月31日現在)

《借入先》	
大蔵省資金運用部	143,756円
郵 政 省	30,915円
新 潟 県	29,356円
そ の 他	69,550円
《目的別》	
一般公共事業	871円
一般単独事業	48,313円
公営住宅建設事業	8,315円
業務教育施設整備事業	58,420円
辺地対策事業	1,649円
災害復旧事業	3,950円
一般廃棄物処理事業	1,200円
厚生福祉施設整備事業	55,441円
過疎対策事業	63,346円
そ の 他	32,072円

建設的な主な事業

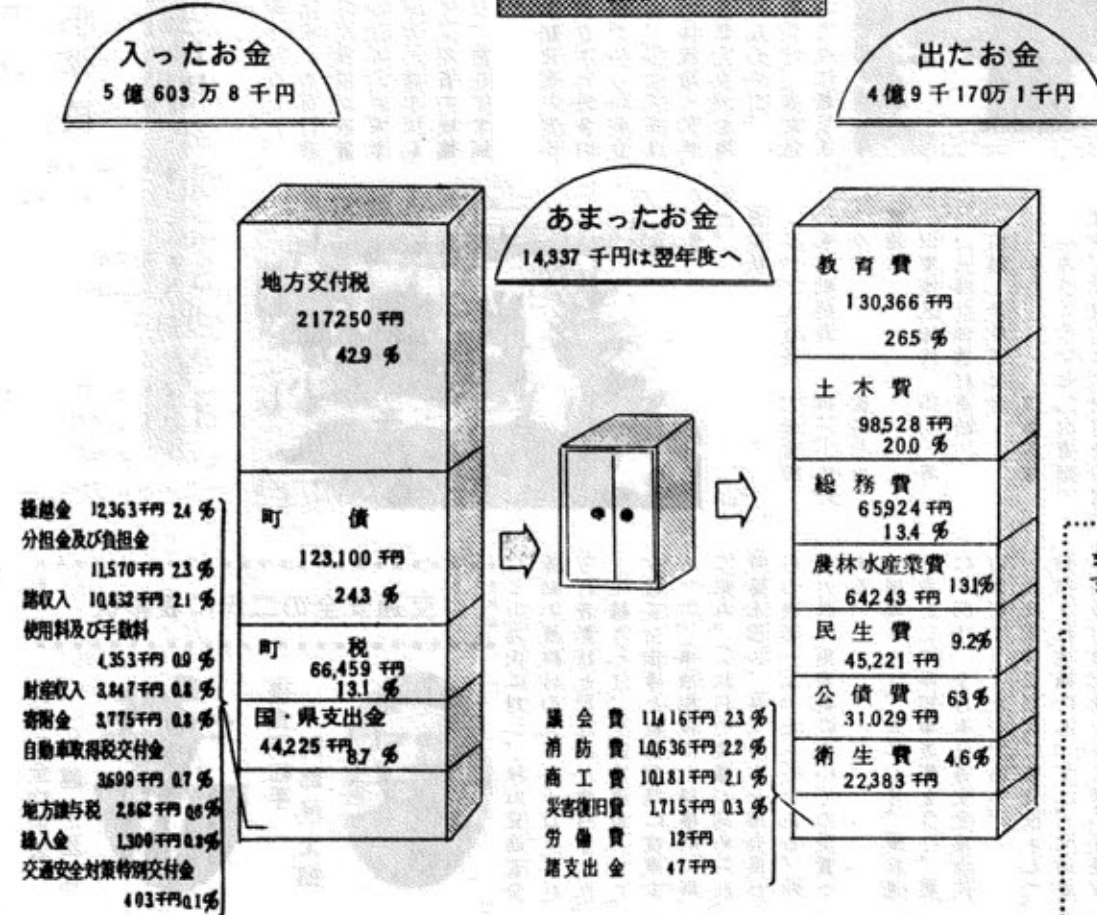
道路の舗装、改良	50,147円
橋のかけかえ	6,072円
道路に消雪パイプ布設	9,167円
県営事業(道路)負担金	8,744円
国 土 調 査	13,306円
林 道 開 設	6,230円
集落開発センター建設	11,265円
農 道 整 備	6,501円
へき地患者輸送車購入	2,050円
ごみ収集車購入	1,780円
小型消防ポンプ購入	1,800円
防火用水溜建設	1,880円
統合中学校用地取得造成	60,244円
小学校プール建設	4,677円
栄養指導センター	5,688円

特別会計

会 計	才 入 及び収入	才 出 及び支出	差 引
国民健康保険(事業勘定)	87,547円	86,775円	772円
〃 (直診勘定)	27,372	36,504	△9,132
簡易水道事業	45,934	42,356	3,578
ガス事業(収益的)	29,747	31,546	△1,799
〃 (資本的)	8,263	8,263	0
農業共済事業	18,811	15,689	3,122

昭和47年度決算のあらまし

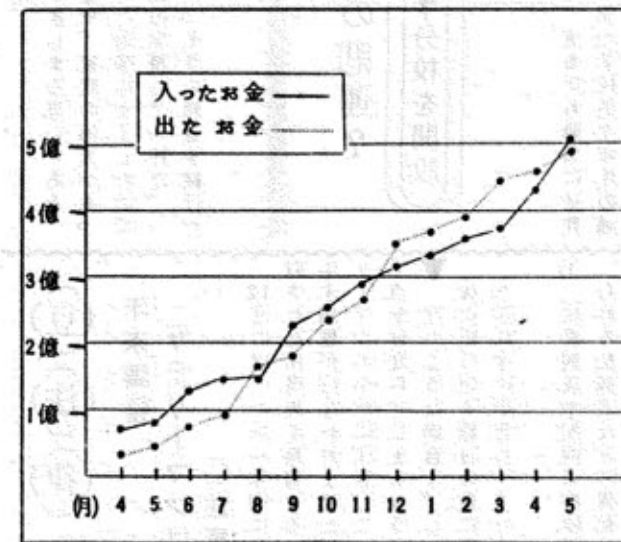
一般会計



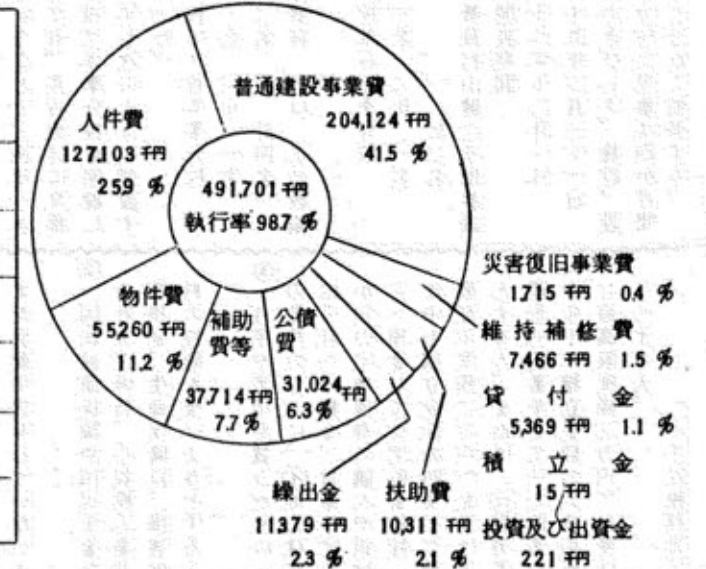
町の家計簿をまとめました

町では、財政事情すなわち町の家計簿を毎年二回公表することになっております。今回は昭和四十八年四月から九月までの六か月間におけるあらましを昭和四十七年度決算を中心に図表でお知らせします。

お金の月別出入の状況



出たお金の性質状況





秋晴れに恵まれた十月十九日、福祉センター会場には約四百人が参集した。星野町長から、農業が国の基幹産業として重要であること、今年の豊作についてのお礼と激励をされ、特に農業後継者として町農業を守る農業青年に対しはげましのあいさつがあった。

つづいて入田小千谷農業改良普及所長から審査報告があり、水稲ほか四部門について表彰が行なわれ、本間県産菜試験場長、上村町会議長の祝辞があり、閉会した。

また併催行事として、農産物の品評会があり、見事な蔬菜類が陳列され、屋外では、苗木類、球根類の展示即売会にぎわった。豊

『宝船』『菊人形』登場 農業振興祭盛大に開催

作を祝って登場した「野菜の宝船」と「菊人形」は、町の農業青年の力作で「宝船」はザット百キロの重量、金額にすると約五万円、都会に住む人たちは少しうらやましい話である。宝船のそばでは、演芸をみながら祝杯を傾けるなどの風景が見られた。

また十月二十三日には町特産の錦鯉品評会も盛大に行なわれた。農業祭の表彰者は次のとおり

△水稲部門 川上清一
野田康家組合代表 堀沢 太一
新敷農家組合代表 小宮山 太一
原新田農家組合代表 山田 隆
相川三農家組合代表 山崎 内平
技術改善賞
西川口生産組合代表 市作
△園芸特産部門 団体賞
西倉青果物出荷組合代表 政吉
町キノコ生産組合代表 保科友一
西倉育苗生産組合代表 川上清一
△畜産部門 団体賞
町酪農組合代表 小西 照次郎
町養豚組合代表 岡村 一夫
△養蚕部門 団体賞
小高集団養蚕組合代表 笹崎 猛
竹田養蚕組合代表 渡辺 義一
△農業青年の部
西倉 川上 清一

昭和四十八年度

今年度文化祭は、いくつかの特色がある。まず芸能まつりを十一月三日の午後にしたこと、書道絵画展を体育館にし、卓球大会を八日にしたこと。岩出原の星野辰蔵遺作展を星野七郎さんの協力で開催したことなどである。

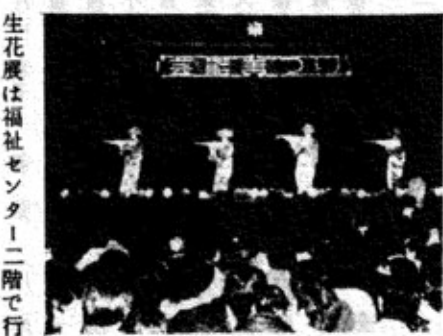
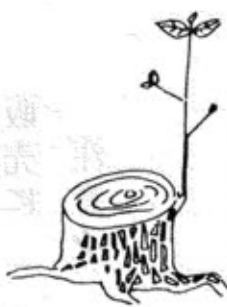
芸能まつり
例年の通り盛況であった。いずれの地区館も活気に満ちた演技を発表された。小高の若者による挿

文化祭行事を振り返る

踊りは町の貴重な芸能と考える。和南津地区館、木沢地区館もよく芸能まつりを盛り立てた。来年をめざして、更に演技を磨いていきたいものである。

菊花展・生花展
菊花展は福祉センター前広場で行われ丹精こめられた菊の美しさにしばし、立たずむ人も多かった。文化祭にふさわしい気持のよい作品が多く見られた。

- △錦鯉部門
◎総合優勝
一部 紅白 小林 孝
一部 五部 大正三色 宮 寅一
- ◎一部優勝
西倉 関 典世
西倉 関 博茂
貝ノ沢 江島 誠
牛ヶ島 丸山 浩
長坂 丸山 輝夫
川口 渡辺 正明
岩出原 岡村 隆好
木沢 星野 正夫
木沢 小林 孝
大形 佐藤 正明
大形 桜井 幸長
大谷内 内山 誠一
- ◎二部優勝
紅白 小林 清吉
大正三色 広井 松男
ダイヤ 広井 松男
- ◎三部優勝
大正三色 江島 要吉
- ◎四部優勝
紅白 小川 博
大正三色 阿部 浩衛
- ◎五部優勝
大正三色 宮 信次



生花展は福祉センター二階で行なわれ、静かな美しきを見せていた。

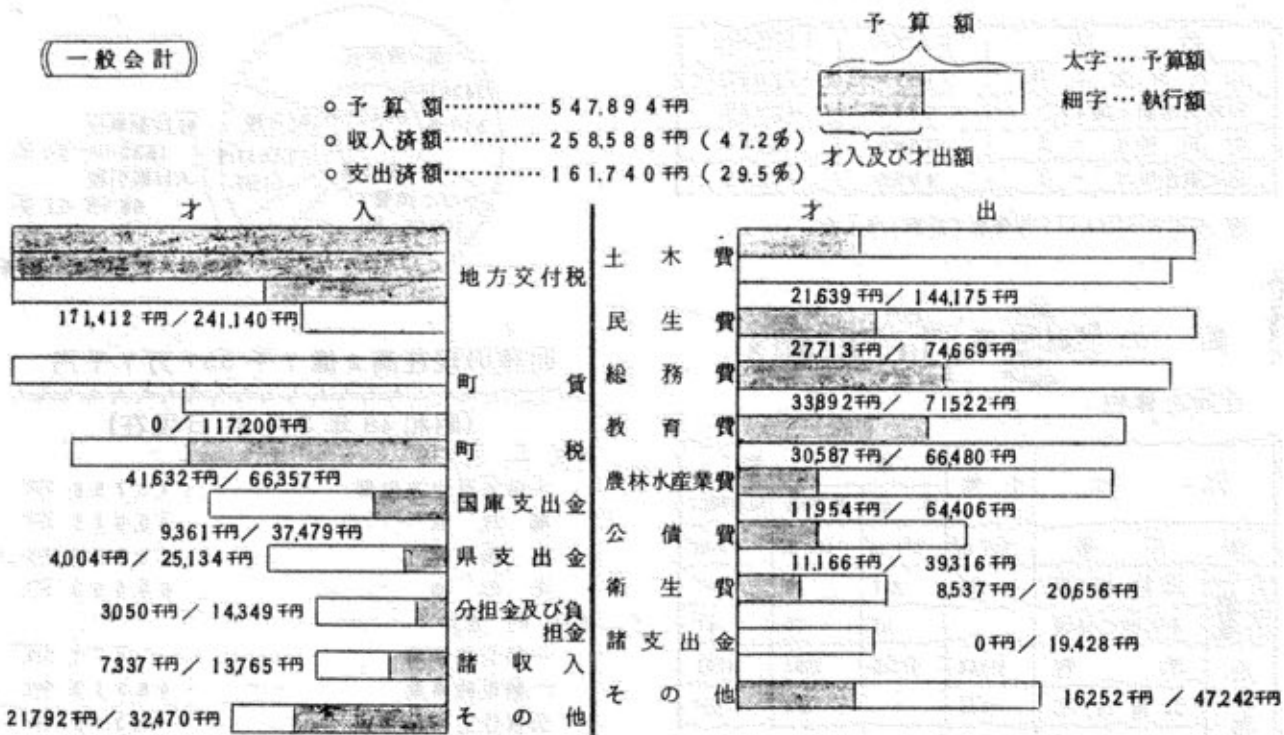
書道・絵画・工作展・写真展
書道絵画写真展は各小中学校の代表作品、一般からの油絵・書道など、優れた作品が多かった。写真展は今回、出品者数が少なく、残念であったが、写真愛好者のより多くの参加を願いたい。

星野辰蔵遺作展
故星野辰蔵さんは岩出原の生まれ、昭和七年三月一日に二十四才の若さで亡くなられた日本画家であった。小中学校時代からその才能を知られ、小千谷中学から、上野の東京美術学校に学ばれた。

今回、展示させていた作品は小千谷中学時代から晩年まで卓越した才能をじゅうぶんに感じさせる逸品ばかりであった。

川口町の生んだ画家として、是非町民のみならず、知って戴き、今後の町の文化の発展を祈りたいものである。

川口町48年度 予算執行の状況 (9月30日現在)



会 計		予 算 額
国民健康保険 (事業勘定)		95,650千円
" (直轄勘定)		4,035
簡易水道事業		26,139
ガス事業 (収益的)		32,988
" (資本的)		8,707
歳業共済事業		19,450

※ ガス事業については
支出予算計上

特別会計

教育委員会 委員の異動

教育委員会委員長の任期満了に伴い十月十九日付で次のとおりそれぞれ改選になりました。

委員長 丸山 池治
委員長職務代理 桜井 利男

山ノ相川校 閉校に伴う 教員異動

創立九十六年の歴史を誇る山ノ相川校も師弟の涙の中で閉校となり、新しい気持ちでそれぞれ川口中学校、川口小学校に転校した。

閉校に伴う教員異動 (新任校)

【小学校】
校長 子田八郎 木沢小学校長
教頭 青木芳雄 川口小学校
教諭 石塚昭子 川口小学校
助教諭井口 正 川口小学校

【中学校】
教諭 平田 仁 田麦山中学校
教諭 橋爪千代 田麦山中学校



※ ビニール不足で水道工事ができない。新築した家屋に電灯の配線ができない。それをやろうとすれば、途方もない金がかかるが、金さえ出せば何とかなるとか誠に奇妙なことである。

※ 鋼材不足、セメント不足……：同様である。

※ 工事用資材の不足だけではすまなくなった。チリ紙不足で水洗便所が使えなくなる……「折角金をかけて水洗に改造したのに」とあわてなげている御仁もいるとか

※ 「ないない」はまだ続く、食塩砂糖・洗剤……こんどは何が不足するか？ 実際には不足しているのだろうか。

※ 中東戦争に端を発した石油危機で、日本は大きくゆれている。日本経済の底の浅さ、見せかけの繁栄を暴露したといえよう。

それにしても、物価のつり上げ物不足の元凶は誰か？ 「消費者は王様」とおだてられて、使い捨てになれた反面、日本人にはまだ戦後の貧困時代の苦い経験で、何でも買いためて、自分だけ一時的満足にひたるくせがあるのではなからうか。